

令和6年度 園芸特産業関係功労者表彰 受賞者功績概要

1 三村 貞美（飯田市）

平成17年4月からJA全農長野等で、「早期成園化」、「高単収」、「省力化」が可能なりんご高密度植栽培について、苗木の供給体制を構築するなど普及・拡大に尽力した。また、自身のりんご園をいち早く高密度植栽培に転換し、県内のJA営農技術員や農業者の視察を受け入れて技術指導を行った。りんご高密度植栽培の礎を築き、本県のリんごの生産振興に献度された。

2 猿田 勝文（大町市）

北安中部漁業協同組合長や大北漁業協同組合連絡協議会長、県漁業協同組合連合会の役員を務め、ブラックバス等の外来魚駆除を目的とした釣り大会の開催や園児を対象とした魚のつかみ取りによる淡水魚とのふれあいを実施した他、原種イワナの保護に取り組むことで魅力ある溪流魚の漁場づくりなどを進めた。

地域の水産資源の維持・継承及び有効活用を図り、本県の水産業の発展に貢献された。

3 ながの農業協同組合飯綱りんご部会（飯綱町）

部会が中心となり、りんごの「つがる」、「ふじ」から有望な県オリジナル品種の「シナノスイート」、「シナノゴールド」等に国事業を活用しながら積極的に改植・新植を進め、農業者の所得向上を図った。

また、消費者との交流にも力を入れており、福岡県の生協に農業者を派遣し、出前講座を開催する交流事業を30年以上も継続するなど、本県産りんごの認知度向上に取り組み、本県のリんごの生産振興及びブランド確立に貢献された。

4 児玉 善郎（山ノ内町）

昭和46年から養殖業に携わり、県水産試験場で開発した「信州サーモン」、「信州大王イワナ」をいち早く導入し、県内トップクラスの生産を誇っており、鮮魚での出荷の他に加工品も手掛けるなど本県のブランド魚として、県内外への普及や知名度の向上に取り組んだ。現在も、信州大王イワナ振興協議会長及び信州サーモン振興協議会副会長を務め、生産振興をけん引している。

また、ニジマスの発眼卵を全国に向け出荷しており、年間通して出荷できる技術を開発し、計画的・安定的な出荷が可能となったことなど、本県の水産業の発展に貢献された。